令和8年度文京区アカデミー推進協議会
第3回分科会(観光分野)概要記録

日　　時	令和8年9月29日(火)　18:30～20:01
会　　場	文京シビックセンター17階　福利健康会議室
出 席 委 員	山田徹雄委員◎、小能大介委員、川又靖則委員、宮本長範委員、 蜂谷伸治委員、中島多津子委員、髙橋明弘委員　(座長◎)
欠 席 委 員	関誠委員、滝沢克也委員
事　務　局	長塚アカデミー推進部長、吉本アカデミー推進課長、 白杉観光・都市交流担当課長、袖山観光担当主査
資　　料	次第、資料第1号　観光分野の施策(案)、資料第2号　文京区アカデミー推進計画の点検・評価について、資料第3号　令和7年度文京区アカデミー推進計画の点検・評価(案)
(議事) 1　議題 ○委員意見 ◆事務局説明	1．観光分野の施策(案)について 分科会資料第1号に基づき、観光分野の施策(案)について説明。 ○ICTを活用したまち歩き観光には、Wi-Fiの整備が必要である。 ◆近年、外国人観光客の多くは自ら通信手段を準備しており、設置した場合の利用状況を見極める必要がある。 ○基本方針の内容は、よくまとまっている。次段階として、その具体化が大切である。混雑対策やバスツアーの受入態勢等は、具体化すべき課題である。 ○「AIコンシェルジュ」等の表現は、高齢者にはわかりにくい。 ○来訪者が直接、区民との交流を求めているとは限らない。区民が愛すべき場所を充実させ、観光で紹介するという視点を軸にしてほしい。 ◆可能な限り、地域の皆さんの声を取り入れて進める。区民の暮らしに結びついた資源の魅力を発信していく。 ○8ページで、他分野との連携に関し「それぞれの分野への興味・関心を観光の入口としたイベント」とあるが、このイベントとは新設・既存のいずれか。 ◆主に、既存のイベントに他分野の要素を加えて展開する趣旨である。 ○コミュニティバスの位置付けについて確認したい。 ◆コミュニティバスは、交通不便地域の解消を原則としつつ、観光においては

	周遊性を高める要素の一つとして活用する。 ○来訪者が自身の地元と文京区のつながりを感じられるような、物語性を盛り込んだ情報発信を深めてほしい。 ◎施策（案）は全体としてよくまとめられていると評価し、これを承認とする。 2. アカデミー推進計画の点検・評価について 資料第2号・第3号に基づき、令和7年度文京区アカデミー推進計画の点検・評価（案）について説明。 （1）分野別基本方針①　区内まるごと周遊の促進について ○指標「他者推奨意向」の調査方法と、目標を下回った理由を知りたい。 ◆昨年実施の無作為抽出による調査で、コロナ禍を経た生活様式の変化や、近年の民泊問題等で来訪者に対する警戒感が影響したと捉えている。 ○区制80周年イベントで盛り上がるのならば、目標値の上方修正を検討してもよいのではないか。 ○学校等が集積する教育環境も本区の観光資源で、これにより新住民が増える好循環も、重要な成果ではないか。学校等と連携したまち歩き企画や情報発信は、本区らしい魅力的な取組になる。 ◎「文京区」の名のとおり、教育は本区の強力なブランド資源である。本基本方針の点検・評価を、議論の内容を含め承認とする。 （2）分野別基本方針②　いつでも、どこでも世界をつなぐ観光情報・魅力の収集・発信・共有について ○まち歩きで活用されていた紙媒体のグルメマップを継続してほしい。食文化は大きな観光資源であり、グルメ情報の発信は重要である。 ◆飲食店情報の発信について、紙媒体は情報更新等に課題があると考えている。現在、デジタルマップやナイトライフ観光情報サイト等で、多言語により発信しており、今後も各媒体の特長を踏まえながらPRを進めていく。 ◎食と観光の連携は重要である。本基本方針の点検・評価を承認とする。

	(3) 分野別基本方針③ つながりから生まれる観光の推進について ○イベントへの協定締結自治体の物産展誘致に関し、区の協力を期待する。 ◆区としても協定締結自治体に積極的に働きかけ、調整を図る。 ○都市交流フェスタにおいて、東京ドームシティのラクーアとの連携は、回遊性向上に大きく貢献した。また、「学問の道」のような物語性のあるルート設定で、上野・御徒町方面からの、回遊性を高めることが効果的である。 ◆回遊性を高めるアイデアを取り入れていく。 ○文京ミューズネットを活用し、海外で見られるようなナイトミュージアムやコミュニティバスで施設を巡る体験型イベントを展開できると良い。 ○他区では桜の時期に名所を巡る周遊バスの運行例がある。民間事業者やタクシー会社との連携も考えられるのではないか。 ◎本基本方針の点検・評価を承認とする。 (4) 分野別基本方針④ 何度でも訪れたくなるおもてなしの環境整備について ○イベントを支える学生ボランティアの参加促進について、区から学校に働きかけてほしい。学生側にも貴重な経験機会となる。 ○118ページの指標「だれもが観光に訪れたくなるまちを支える仕組みをつくること」への満足度とは、誰を対象にしたものか。 ◆無作為抽出の区民と、事業参加者の2系統を対象としたものである。 ○観光ガイドブックやデジタルマップに関し、利便性向上の成果指標はあるか。また、多言語対応の拡充も検討してほしい。 ◆ガイドブック等の取組では、最新情報への更新により利便性向上を図っている。冊子は4言語、デジタルマップは多言語で対応している。 ◎基本方針について、活発な議論が行われた。本日の意見を踏まえて、令和7年度の点検・評価(案)を承認とし、評価としてまとめる。
2 閉会	